

第 64 回横須賀市文化振興審議会 議事概要

日 時 平成 29 年 3 月 29 日(水)15:30～

場 所 審議：横須賀市役所本庁舎正庁

出席者：秋岡委員、菊地委員、西堀委員、蛭田委員、藤井委員
吉田委員、若江委員

欠席者：崎山委員、山本委員

傍聴者：なし

事務局：文化振興課 小澤課長、福原主査、遠藤主任

-
- ・事務局より、傍聴者なしとの報告があった。
 - ・事務局より、定足数についての報告があり、委員定数 9 名のうち 8 名が出席しており、過半数を満たしているため、本審議会が有効に成立している旨の報告があった。
 - ・規定により、吉田委員長を議長とし、次第に沿って進行。

【審議事項】

次第1 平成29年度の事業予定について

事務局から資料1により説明を行った。

○質疑応答

委員 資料1の3ページ、「5 芸術劇場・文化会館等設備更新事業」のところで、「(2) 文化会館等『管理』、①文化会館の『管理』、②はまゆう会館の『管理』と記載されている部分ですが、すべて『設備更新』ということでしょうか。

事務局 大変失礼いたしました。正しくは、「設備更新」です。

委員 資料1の文化振興にかかる予算総額の約9億3000万円のうち、約8億8000万円が4番・5番の芸術劇場・文化会館等管理事業と設備更新事業で占めています。
今後、人口が減って収入が減ったり、予算が削減されたりすることになった場合、4番・5番は固定費でそんなに減らせない部分で変えられないと思うのですが、そうするとほかの部分が圧迫されたり、減ったりということが心配です。将来的にその関係はどうなっていくものでしょうか。

事務局 4番の芸術劇場、文化会館等の部分ですが、芸術劇場は、施設の管理とともに、公演を行ったり、貸館を行ったり、自主事業としていろいろなイベントを行っています。維持管理だけで、約3億9000万円を指定管理料として、横須賀芸術文化財団に指定管理を委託しています。芸術劇場は、舞台芸術や音楽等の普及と取り組みも行っていますので、比較的大きなお金がかかっています。
文化会館は維持管理が中心で、自主事業はあまりやっていないという現状です。貸館中心のホールで、主に市民の方の発表の場となっています。文化会館等の管理は、はまゆう会館もありますので、はまゆう会館を含めた2館の予算となっています。文化会館は4年に1回の指定管理者の選考があります。公募で選考を行っており、経費の圧縮とサービスの向上について、提案する業者によっては費用が下がることもあります。
芸術劇場は8年間の指定管理になりますが、同じく提案する業者によって、多少の管理経費の圧縮は可能だと思っています。

全体として、文化振興にかかる予算としては、近代化の歴史にかなり力を入れており、日本遺産に選ばれたこともあり、観光分野との連携もあり比較的、経費的には維持されていると思っ

ています。今後これ以上下がるかというところ、今のところ、やや右肩上がりで行きたいと思っています。維持管理以外の割合がそんなに下がることはないと思っています。

委員 資料1ページの「(4)近代歴史遺産活用事業」の軍港資料館はとても大事なものだと思いますが、この「軍港資料館」という名称は仮の名前でしょうか。

事務局 検討が始まった時に建物を表す言葉として、「軍港資料館」という言葉を使っています。先ごろ、軍港資料館等検討部会から報告書があがってききましたので、今後、具体的な施設の検討に入っていく中で、施設の名称についても検討することになっていくと思います。

委員 横須賀製鉄所は、フランスの資料を見ると、「製鉄所」という言葉は使われず、「海軍の施設」ということでずっと通しています。フランスの文献で言えば、すべて「海軍」、「軍港」で通しているので、「軍港資料館」という名称はよろしいのではないかと思います。

軍港資料館は、横須賀の代表的な施設になると思いますので、ぜひ実現させてもらえればと思います。長期的には負担になるかもしれませんが、これがないと横須賀の存在理由がなくなってしまうとも思いますので、これは応援していきたいと思っています。

委員 毎年話題になりますが、芸術劇場関係の割合が非常に高いと思うのですが、これが他の自治体と比べて、割合がどうなのかというのを教えていただきたいです。

文化会館は非営利的な催しが多いと思いますが、横須賀芸術劇場は派手にやっていると思うので、市民の皆さんはかなり独立採算に近いイメージを持っていると思います。

そうすると、ここまで予算がかかってしまうということがやむを得ないのであれば、もう少し周知して、皆さんに知っていただいた方がいいのではないかと思います。

事務局 芸術劇場は鑑賞の場が中心となっていますが、育成の場としても少年少女や大人の合唱団もあり、採算ではない事業もかなり行っています。文化施設の場合、黒字というのはほとんどないと思います。それなりの設備が必要であること、また、土日はお客様が入りますが、平日を埋めるのは厳しく、平日で採算が取れるのは東京くらいで、横浜でも平日は苦しい状況です。横須賀はさらに三浦半島の先ですし、首都圏と競合することもあります。一般の方や若い人が来るような公演の場合、東京・

横浜が中心になってしまいます。来てもらうとしても、年に数回になるので、空いているところはクラシックや他がやっていないような自主制作のオペラをやったりしています。赤字という状況であることは事実です。

横須賀は3館ありますが、中核市を見ると、3館くらいは持っていることが多いので、これくらいなのかなと思います。横須賀芸術劇場のようにオペラ仕様の施設は全国的にも少ないのではと思っています。

指定管理制度により、サービスの向上と経費節減を図っていますが、全てを独立採算でやるのは不可能です。文化会館は貸館中心で、市民の皆さまの利用を促すために、利用料金を安く設定していますが、管理料金をペイできる利用料金の設定にすると、今の5倍、6倍という料金になると思います。そうすると利用はもっとされなくなると思います。今の利用率は70%くらいありますので、それなりに健闘しているのではないかと思っています。その上で、自主事業を行わないといけないという状況です。広報周知も必要だとは思いますが、文化施設は採算性や効率性だけでなく、将来的な育成の場やいいものを身近に子ども達が見られたり、将来への投資であったりということで横須賀市はやっています。もちろん、大きな赤字がいいとは思っていませんので、圧縮できるようにしていかないと厳しいと思っています。

委員 指定管理の制度、応募者は結構あるものですか。

事務局 前回、劇場を公募したときに手を挙げたのは3社です。指定管理者制度は、平成18年に入った制度で、最初は横須賀芸術文化財団の随意契約でやりましたが、前回から公募して3社出ました。公募した成果として、経費の圧縮はありました。ただ、利用率が上がったかという点、難しい部分はあり、指定管理者制度にすることで、劇的に収入が増えるということはありませんでしたし、今後も難しいと思います。文化会館は2社、手が上がりましたが、文化会館は貸館専用なので、自主事業を行うというものではないので、業者が手を挙げづらいという部分もあったと思います。

委員 実際の事業の中身、事業費が余りかかっていないと思います。市民団体の共催・後援にかかる予算は7万円ということですが、箱物行政のつけが出てきていると思います。事業費にお金がかかけられず、建物の修繕にお金がかかけられてしまっているのだと思います。

神奈川芸術劇場、KAATは芸術監督を置いて、横浜の地の利を活かして上手にやっていると思います。横須賀芸術劇場もやり方次第で、もっとうまく使うことができるのではないかと思います。

横須賀芸術劇場についても、全国に訴えるものがあるのかどうか、住んでいて寂しいなと思いますので、どんな形で魅力や付加価値をつけていくかということだと思います。

事務局

共催、後援の7万円は何かというと、団体さんが何か式典をやる場合、市長賞というトロフィー等を出す予算を組んでいます。お金はあまりかからない部分で、協力をさせていただいています。ここは今後の課題にさせていただきたいと思います。

横須賀芸術劇場ですが、年々老朽化していくので、維持管理にお金がかかってきます。KAATや県民ホールは横須賀の倍くらい、お金がかかっていると思います。その分、公演に対する補助が横浜は横須賀より手厚いと思います。

横須賀芸術文化財団も若い人にお越しいただけるような魅力ある事業をやってはいますので、今後、言われたことを肝に銘じて、改善をしていきたいと思います。

委員

横須賀芸術劇場は吹奏楽のコンクールなどで利用したことはありますが、音楽関係に携わっていない人は興味もないかもしれないし、なかなか難しいのではないかと思います。

例えばですが、音楽に利用するというのもありますが、建物の中もきれいなので、中のツアーを組んでみたり、そういうものも横須賀市民の人はお金を払わず、市外の人に払ってもらうなど、音楽だけでなく観光資源として活用することもできるのではないかと思います。

事務局

バックステージツアーは毎年子ども向け、大人向けにやっています、また、年に1回、オープンデーというイベントをやっています。まず知ってもらうことが大切ということで行っています。横須賀芸術劇場はオペラ仕様の劇場ですので、なんでも使えるということで、演劇やロック、歌舞伎、落語などさまざまなジャンルのもをやっています。吹奏楽の中学校やコンクール、県大会、東関東の大会をやっていますし、吹奏楽の人たちにとっては横須賀芸術劇場が聖地のような形になっているのかもしれませんが、市外の方に認知してもらうようなコンクールを誘致するなど頑張ってはいますが、まだまだ知らない人もいますし、気軽にお越しいただけるような取り組みをしていきたいです。

- 委員 同じオペラの公演でもチケット料金が渋谷の Bunkamura だと高く、横須賀だと少し安いということがあると思うのですが、そこに横須賀市からの使用料か何か補助のようなものがありますか。
- 事務局 例えば、同じオペラ公演を横浜と横須賀でやった場合、お客さまは横浜に行ってしまうと思います。横須賀に来てもらうためには、立地の条件などを踏まえ、横須賀は 1,000 円安くするというような努力をしないと来ていただけないということがあると思います。
- 委員 地元で鑑賞できるのはうれしいのですが、席が埋まっていないケースもありますよね。世界水準と言えるような最高のプログラムでも空席が目立つことがあるので、なんとか埋めることはできないのでしょうか。
立地の条件というお話がありましたが、三浦や金沢文庫からはもちろんですが、例えば、品川や川崎からでも横浜の神奈川県民ホールより、横須賀芸術劇場の方が交通の便が良いのではないのでしょうか。このアクセスの良さは意外と知られていないようです。もっと宣伝するといいのかなと思います。
- 事務局 横須賀は思った以上に遠くはないのですが、イメージとして遠いイメージがあると思います。そういったイメージを払拭するように横須賀市全体で取り組んでいるところです。
座席を埋める努力としては、学生には半額という取り組みや、なるべく競合しないよう公演を誘致するように努力しています。
現在、クラシックやオペラは 6 割入ればいいかなというくらいです。有名人が来れば埋まってしまうますが、音楽好きの人たちでは有名だけど一般的にはそこまでという人だとなかなか埋まらないというのが現状です。
オペラは満席になっても黒字にはならないので、赤字覚悟の状況です。時代の流れもありますが、努力していきたいと思います。
- 委員 チケットの売り上げなど収入は市の財政にどれくらいの割合で、指定管理者にはどれくらい入るものですか。
- 事務局 仕組みとしては、チケットの売り上げや使用料などの収入は指定管理者の収入になります。その中で、指定管理者はやりくりしてくださいという制度です。
例えば、指定管理者が収入を 5 億円見込んだけれど、4 億円しか収入がありませんでしたという場合、その差額を市が補填をするかということ市は補填しません。

- 事務局 例えば、芸術劇場に関してですが、維持管理の経費が約 4 億円。公演をしたり、合唱団の育成をしたりという事業費が約 4 億円かかります。運営の中での支出は約 8 億円あります。収入としては、利用料やチケット代などを足して、指定管理者として入るものが約 4 億円。その差額の約 4 億円を横須賀市が指定管理料として払っています。例えば、たくさんお客さんを集めて、収入が増えれば、その分は指定管理者の方に入るインセンティブとなりますので、より人を集める事業に取り組むということになります。
- 委 員 横須賀市生涯学習財団というものもありますが関わりはありますか。
- 事務局 横須賀市生涯学習財団は、生涯教育・市民大学などを中心に行うために作った財団なので、横須賀芸術劇場の管理運営とは関わりはありません。

【審議事項】

次第2 文化会館・はまゆう会館配置適正化実施計画について

事務局から資料2により説明を行った。

○質疑応答

委員 利用率について、文化会館はいいけれど、はまゆう会館はあまりよくないと聞いていて、はまゆう会館の使い勝手が悪いという先入観がありましたが、数字を見ると文化会館の方が低いように見えてしまいました。

事務局 はまゆう会館の多目的室とリハーサル室の利用率が90%を超えているので、高く見えてしまうのだと思います。この2部屋については、文化会館に集約する場合も考慮していきたいと思っています。

委員 展示室の利用率が低いということですが、20年前に文化会館で製鉄所の写真を展示したことがあります。2室あるうちの1室を常設展示にするということはできないものではないでしょうか。費用がかからない形で、市の主催で常設展示をするようなことも考えられるのではないかと思います。
意見交換会をかなり開かれておりますが、それに出た意見をどの程度、市民が共有しているのでしょうか。一般の市民がどのように知っているか、そういうデータはありますか。

事務局 意見交換会の意見については、今後、市のHPで文化会館、はまゆう会館に限らず、他の施設のものも含めて、まとめて公開する予定です。
常設の展示については、利用率の向上の観点で言えば、そのやり方もおそらくできると思います。ただ、その場合、経費の部分がどうなるかということもありますので、考えながらやっていきたいと思っています。

委員 意見交換会について、文化関係の団体に行っていると思うのですが、例えば、学校や部活動などでも利用していたので、学校などに意見交換に行くということはあるのでしょうか。

事務局 文化会館、はまゆう会館に関しては、学校への説明は行っていません。
ただ、特に学校関係の利用が多い、例えば、プールや学童保育の関係でよく使うようなみんなの家などの見直しの中では学校への説明ということもやっていると思います。文化会館、はま

ゆう会館については、市民の方の利用が中心なので、団体との意見交換会を行いました。

実際に建て替えとなる 20 年後には学校関係にも話をしていけないといけないものだと思います。

委員

とてもよくできている資料だと思います。ただ、文化会館、はまゆう会館の現状をどう維持していくかに縛られているのではないかと思います。

極端に言うと、文化会館もなくてもいいのではないかとか、あるいは、例えば、劇場にアネックスを作るとかショッピングモールに複合施設を作るという発想があってもいいのではないかと思います。

市の将来予測があまりに受身なのではないかと思います。受身ではなく、攻めていく姿勢で人口減少にどう立ち向かっていくか、ショッピングモールに複合施設を作るということも関連してくるでしょうし、ちょっとおとなし過ぎるというか、受身すぎる印象を受けました。とてもよくできている計画だと思いますが、そのあたりはいかがでしょうか。

事務局

人口減少に関しては、自然減についてはどうしようもない状況だと思いますが、社会減については、いろいろな施策によって可能な部分もあると思いますが、その施策をやったとしても人口減少は止められないというのが市の見解です。

そういった中で、館を一館にするべきという意見もあります。一方で、いろんな意見を聞いていくと、芸術劇場の役割と文化会館の役割は違って、芸術劇場は見る場、みなさんの発表の場は文化会館・はまゆう会館が中心となっている現状がありますし、一館体制でやっていくのは厳しいのではという意見が市民の方でも多いのではないかと感じています。

2 館あれば、それだけ経費が掛かりますし、それについては今後も努力していかなければいけないと思います。

芸術劇場については、赤字が大きいのであれば、自主事業を考えながらやっていかなければいけないと思います。

現時点では、鑑賞の場と発表の場と分けて、それぞれ一館ずつ考えていきたいと思っています。今後、中央エリアの再開発もありますし、ショッピングモールとの複合施設というものも可能性の 1 つとして、考えていきたいとは考えています。

委員

文化会館は、駐車場、大ホール、中ホールなど一般の市民は利用しやすいですが、芸術劇場は一般の方にとっては利用しづらいと思います。中央に複合施設を持っていくことは考えられますが、土地の確保やどういう建物が可能なのかなど、どう計画を進めていくのかなと思います。

- 事務局 図書館も配置適正化計画に入っていますが、どの施設を複合するか、土地をどうするかということは課題になってくると思います。中央地区であれば、再開発で活用できる部分があれば、複合化に向けてやっていくということも1つの考え方であると思っています。
- 芸術劇場は、プロが利用する高度な施設・設備が入っているので、その分、利用料金が高くなっています。文化会館は一般の方には十分な設備となっているので、利用料金も安くなっている。芸術劇場は大きな行事のみ、普段は文化会館でやるというのが市民の利用の仕方の現状だと思います。
- 委員 計画期間は平成64年まで35年間だと思いますが、35年後まではまゆう会館を今の状況で引っ張れるものでしょうか。
- 事務局 施設の寿命を70年、大規模修繕を35年と考え、この計画ができています。
- 文化会館の寿命が来るのは平成46年になります。まゆう会館はもう少し新しいものなので、実際には持つものだと思います。ただ、その中で、大規模修繕も出てくると思いますので、必要最低限の補修修繕をかけながら行っていきたいと思っています。
- 委員 安全や危機管理の問題もあると思います。警察署や税務署なども上から下へ来ている、何かあった場合、拠点としてダメだったということも考えられると思います。そういうことを考えると、この計画自体が平成町の開発の延長線上にあるような気がします。安全面も考えているのでしょうか。
- 事務局 中央地域が多いというのは、市民の声が多かったというものもあります。例えば、別のところにもあっていいとは思いますが、いずれにしても、安全面も含めて考えないといけないと思います。
- 委員 とても丁寧に関係団体に説明していること、利用率の想定なども非常にわかりやすかったと思います。
- 心配としてですが、数値の説得力はありますが、質の問題に不安が残りました。説明会に出ている利用者も、今の文化活動の団体だと思います。果たして、20年後同じような活動をしているのか、平成64年に至っては全く想像ができませんが、そういった人たちにとっていい施設ができるのかというのを考慮して計画を考えていく必要があると思います。
- 都内の音楽大学は、ほとんど私立は定員割れで、歌やピアノが減っています。何が増えているかというと管楽器のプラスバンド、ポップス、ダンス、ミュージカルなどの生徒は増えていま

す。そういった子どもたちが活動するスタジオなどを学校が作っています。

意見交換をした市民団体だけでなく、一方でそういった動きがあるという流れを踏まえ、そういったところまで見通して、質の変化を見通した計画が必要なのではないかと思います。

事務局

建て替え後のイメージ図ですが、あくまでイメージですので、スタジオ機能が必要と聞いてもいますし、20年後に建て替えを行う段階でのたたき台であり、スタジオや音楽スタジオの機能があればという声も聞いていますので、機能については今後の課題としてやっていきたいと思います。

委員

施設の役割、どういう機能を持たせるか、施設の哲学をどう持たせるかということを指定管理者がどの程度考えて、運営をしていくのが大事だと思います。

文化を支える資料とか情報、職員の専門性など、機能や質の問題をこれから検討されていくのではないかと思います。

事務局

指定管理者の選考については、設置目的や文化の位置づけなどは重要な提案事項の要素となっています。私たちもはっきりとその点を打ち出していないと、市民の理解も得られないのではと思っています。

【審議事項】

次第3 その他

質疑応答は特になく、審議会は終了した。